

校歌

小宮豊隆作詞／信時 潔作曲

一、今川と祓郷川と

右左ゆたかにうねり

馬ヶ嶽西より迫り

彦山は南に聳ゆ

翠松は校舎を囲み

風立てば琴を奏づる

二、俗塵を遠く隔てし

こゝこそは学問の城

この城の築かれしより

七十の星霜重ね

さまざまの名士を生みて

栄光に歴史輝く

三、恵まれし環境たゞへ

この歴史心にきざみ

雪の日も嵐の朝も

たじろがず学にいそしみ

一心不乱事に向へば

なにごとかなし得ざるべき

四、いざ我等心を合せ

高々と理想をかゝげ

惜しからぬ命を賭けて

勇敢に真理を護り

渾沌の世界の中に

とことのはの平和を布かむ

準校歌

畑 正世作詞

一、紫紺に匂ふ英彦の

高嶺霞み春深し

松林のうちほの白く

花は胡蝶の夢に咲き

瞳あぐれば学舎に

眉より淡くかゝる月

二、あゝ春来れば草に坐し

望み夢見し若人の

数今将に二万人

光輝く園のうち

根強く直く伸てゆく

若きぞ我等幸多し

三、錦陵の原秋更けて

あゝ豪放の雲の群

落日赤く染めゆけば

勝鬨挙げし男児等の

血潮も斯くや燃えけんと

空しく昔偲ぶかな

空しく昔偲ぶかな

空しく昔偲ぶかな